

2023年度二松学舎大学
日本漢学研究センター シンポジウム

転換期における 東アジア文化交流と 漢学

日時：2023年10月28日（土） 9：30～16：30

会場：九段校舎3号館(千代田区九段南2-2-4) 3041教室

主催：二松学舎大学日本漢学研究センター

オンラインにて漢学者記念館会議も開催

入場無料・事前申込不要

Zoomでの参加をご希望される方は、10月26日(木)午前10時までに
申込フォームからお申込みください。
開催日前日までにZoomのURL等をお送りいたします。

<https://forms.gle/fXp9qrzgaUw9434M8>

連絡先：二松学舎大学日本漢学研究センター kangaku@nishogakusha-u.ac.jp

開催趣旨

本シンポジウムは、このたび漢学塾二松学舎出身で中国大陸において通訳として30年以上にわたり活動した清宮宗親（1876～1936）という一人の中国通の資料が寄贈されたことを契機として、19世紀末～20世紀初頭の転換期に東アジア諸地域においてみられた様々な文化的交流について、「漢学」に焦点を当てながら討論するための場として企画された。

当該期は国内では新しい中国研究が興隆する一方で、「漢字漢文」の文化伝統が減退していった時期であり、また激動する国際秩序の中で対外戦争や疫病に人々が呻吟した時代でもあった。過去の人々の営為の具体的検証を通して、今日の生きる糧を得る機会としたい。

プログラム

(午前の部)

総合司会：川邊雄大

- ・9：30～9：50 町 泉寿郎（二松学舎大学）：趣旨説明・展示解説
- ・9：50～10：30 王 宝平（二松学舎大学）：講演「愈樾と明治日本」
- ・10：30～11：10 陶 徳民（関西大学名誉教授）：
講演「日本の漢文脈との出会いと付き合い」

- ・11：20～11：50 田山泰三（香川県）：「黒木欽堂と長尾雨山－二松学舎ゆかりの讃岐出身の二大漢学者」
- ・11：50～12：20 青山大介（安井息軒記念館）：「安井息軒による明治初期の日中学術交流」

(午後の部)

- ・13：20～13：50 中村 聡（二松学舎大学）：「日本に再上陸したキリスト教の特徴を考える」
- ・13：50～14：20 謝蘇杭（千葉大学（非））：「中国の儒教的世界観と日本本草学－『本草綱目』の受容から」
- ・14：20～14：40 王弘（二松学舎大学（院））：「1920～30年代の大連詩壇における日中文人交流－李文権を通して見る詩壇の変遷」
- ・14：40～15：00 張付梅（二松学舎大学（院））：「『燕塵』にみられる服部宇之吉の－考察」
- ・15：00～15：20 山形悠（二松学舎大学（院））：「京都の漢方医と漢学者－漢詩コミュニティとその詩集」
- ・15：30～16：30 総合討論・閉会